

新しいお札と初対面

宇敷 辰男

二〇二四年七月の三日（水）に発行された渋沢栄一の新一万円札と、津田梅子の新五千円札は、妻が五日（金）みずほ銀行で交換し我家で初めて対面した。

この日、光が丘公園に向って散歩していると、歩道に三井住友銀行の封筒が落ちていた。数十歩行き過ぎ、新札に交換して落したのかも知れないと戻り、拾い上げた。一万六千円と走り書きがあった。新しい一万円、五千円、千円札に違いないと覗いてみたら、旧札の福沢諭吉、樋口一葉、野口英世が一枚ずつ入っていた。

久しぶりに拾ったお札である。届けようと散歩コースにある交番に向った。着くと人影が無く、中に入るとテレビ電話があり、自動接続で光が丘警察につながりますと書いてあった。しかし一向につながらない。エアコンのない無人交番は蒸し暑く、仕方なく光が丘警察まで歩いて行った。

着くと警察官が中身を確認し、拾得した権利を放棄するかと聞くので、ノーと答えた。暫くソファで待っていると、所定の拾得物件預り書を持ってきた。

見ると権利の選択肢があり、「一切の権利を放棄します」、「放棄しない場合」↓一部の権利「交通費等の請求権」「報労金の受取り権」「落し主が現れない時の所有権」を放棄しますとあった。裏面には「報労金の額は拾得物の価格の百分の五から二十まで」「施設内の拾得は百分の二・五から十」と範囲の定めがあった。交通費は掛っていないけれど、この日は三十分長い散歩タイムと相なった。

八日（月）携帯に電話があり、男性の声で光が丘警察に行ったら拾っていただったのでお電話したと言う。光が丘駅の改札口で顔を合せると、八十代位の小柄な男性で「自転車を買ひ替える積りで助かりました。お札に丁度新千円札を持っているので勘弁してほしい」という申し出で、北里柴三郎と初めて対面した。

十五日（月）出掛けの道端に女性物の財布が落ちていた。続く時は続くものである。でも届けると三十分掛かるし、新札には対面したので、見過ごすことにした。